

小・中学校音楽研究部

I 研究主題

音楽科の学習の質を高めるための言語活動の充実

—共通事項を共有・活用し、創造的に音楽と関わる児童生徒の育成—

II 主題設定の理由

「音楽科の学習の質を高めるための言語活動の充実」を研究主題とし、鑑賞の活動で定着しつつある「感じ取ったことを言葉で表す」「言葉で説明する」ことをさらに深める音楽科の学習（主に鑑賞領域）について研究を進めることとした。

学習指導要領が改定された際、音楽科における言語活動の充実として、小学校では鑑賞領域の各学年の内容に、感じ取ったことを言葉で表すなどの活動が位置づけられた。中学校においても、『言葉で説明する』『根拠をもって批評する』など音楽の構造などを根拠として述べて、感じたことや考えたことなどを言葉を用いて表す主体的な活動を重視する。」として鑑賞領域が改善された。

音楽科の学習における言語活動として、グループでの合奏をどのように高めていくかなどを話し合ったり、楽曲を聴いて感想を发表或し、プリントに記入したりするなどが挙げられる。しかし言語活動に時間を費やしてしまい、「音」を通して学ぶという本来の音楽科の学習から離れてしまう場合も多い。

教師が発問を工夫したり、音楽的な思考を促したり、環境を整えたりすることで、楽曲を聴き「どのように感じるのか。」だけでなく、さらに「なぜそう感じるのか。」「音楽のどのような部分から、そう感じるのか。」など、音楽的な特徴と関連させながら音楽を聴く能力を高めることができると考える。また、楽曲に対する思いを児童生徒同士で言語活動を通して、さらに深めることができるような授業を展開していきたいと考え、本主題を設定した。

III 研究の内容

○ 研究の方向性

音楽研究部の研究主題「音楽科の学習の質を高めるための言語活動の充実」をうけて、以下の方向性を立てた。

- (1) 児童生徒が音楽に対する思いや、感じ取った楽曲の特徴や良さなどを伝え合うために、音楽における〔共通事項〕を意図的に教師の発問やめあてに取り入れ、音楽的な言葉を共有し、その言葉を用いて適切に活用できるようにする。
- (2) 音楽に合わせてリズムを打ったり、指揮をしたりするような身体表現や感じ取ったり感じ取ったりしたことを、図や絵などで表し、音楽的な特徴をとらえることを可視化することで、言葉で表しやすくする。
- (3) 言語活動を通して、他者の思いを知り自分の考えを深め、さらに音楽を深く味わって聴くために、音楽を聴く活動と児童生徒同士で思いや感じたことを言葉で表す活動（言語活動）を繰り返し行うようにする。

IV 実践例

実践例① 所沢市立和田小学校 第3学年の事例

1 題材名「いろいろな音色を感じ取ろう」

2 本 時

(1) 目 標

- トランペットとホルンの形や音色の違いに関心を持ち、耳を澄まして聴くことができるようにする。 (音楽への関心・意欲・態度)
- 主な旋律を手掛かりにして旋律の繰り返しに気をつけて音楽を聴き、トランペットの音色を感じ取って聴くことができるようにする。 (鑑賞の能力)

(2) 本時で主に扱う[共通事項] 音色 反復

(3) 展 開 (1/5時)

○学習内容 ・学習活動	○主発問 ●評価規準 【評価方法】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">学習のめあて「トランペットとホルンのひびきにしたいもう」</div>	
<p>○トランペットとホルンの形や音色の違いに関心を持つ。</p> <p>・「トランペット吹きの日」の主な旋律を聴く。(冒頭の部分・音源のみ)</p> <p>○トランペットとホルンについて知り、演奏の仕方や音色の違いを感じ取る。</p>	<p>○「<u>どのような楽器で演奏されているか</u>、<u>また、どのような感じの音か</u>、<u>気をつけて聴きましょう。</u>」</p>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px;"> <p>研究(1) 演奏の仕方や音色の特徴など、聴くポイントを明確にした。また、[共通事項]を意図的に用いた発問をすることにより、楽器に対する知識や音色の特徴を全体で確認(共有)できるようになった。</p> <p>研究(2) 感じ取った音楽の特徴を発表する場を設け(言語活動)、もう一度聴いて確かめること(鑑賞活動)で、音楽を聴く学習をより深めることができた。</p> </div>	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content;"> <p>ゲストティーチャーによる生演奏で、子どもたちの興味関心もさらに高まった。</p> </div>	<p>●トランペットとホルンの形や音色の違いに関心を持ち、耳を澄まして聴こうとしている。</p> <p>【発言内容・行動観察(関心・意欲・態度)】</p>



【音楽授業支援DVDの活用】



【めあてを持って音楽を聴く】



- 旋律の繰り返しに気をつけて音楽を聴き、トランペットの音色を感じ取る。
- ・主な旋律を聴き、旋律絵をなぞったり、リズムや旋律を覚え口ずさんだりして、音色の変化を感じ取る。

あのせんりつだ



- 「この旋律が出てきたところで、手をあげてみましょう。何回出てくるかわかるかな。よく聴いてみましょう。」

こんどは強くきこえる!



【旋律の反復を感じ取りながら音楽を聴く】

研究（3）

音楽を聴いて、主旋律の変化をとらえて挙手するなど、可視化することで、音楽的な特徴（反復や強弱）をとらえることができた。

- 主な旋律を手がかりにして、トランペットの華やかな響きを感じ取って聴いている。

【発言内容・行動観察（鑑賞の能力）】

実践例② 所沢市立美原小学校 第3学年の事例

1 題材名「いろいろな音色を感じ取ろう」

2 本時

(1) 目標

- 楽器の音色や旋律の特徴を感じ取って聴く学習に進んで取り組むことができるようにする。 (音楽への関心・意欲・態度)
- 楽器の音色や旋律の反復などに気をつけて聴き、感じ取ったことを発表するなどして楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴くことができるようにする。 (鑑賞の能力)

(2) 本時で主に扱う〔共通事項〕 音色 反復

(3) 展開 (1 / 5時)

○学習内容 ・学習活動	○主発問 ●評価規準 【評価方法】
<p>○ホルンとトランペットなどの金管楽器の音色や形の違いに関心をもつ。</p> <p>・「アレグロ」の冒頭部分の主な旋律を聴く。</p>	<p>○「今から、音楽を聴きます。どんな楽器で演奏されているか、どんな感じの音が注意して聴きましょう。」</p>
<p>学習のめあて「ホルンのひびきにしよう」</p>	
<p>○いろいろな金管楽器の音楽の冒頭部分を聴く。</p> <p>楽器の仕組みについてあらかじめ学習し、楽曲や音そのものに視点を絞って聴くことができた。</p> 	<p>○「今から、いろいろな金管楽器の音楽を聴きます。どの楽器で演奏されているか、どんな感じの音が注意して聴きましょう。」</p> <p>実際に楽器演奏を聴かせることで、鑑賞の学習内容に興味・関心を持ち主体的に音楽活動に取り組もうとする意欲や態度を高めることができた。</p> <p>●ホルンとトランペットなど金管楽器の形や音色の違いに関心をもち、聴こうとしている。</p> <p>【発言内容・行動観察】</p> 
<p>研究 (1) (2)</p> <p>児童が音そのものに注目して聴き、音や言葉で考えを交流することで、友だちの考えに共感しながら鑑賞を深めることができた。</p>	
<p>○旋律の繰り返しに気をつけて音楽を聴き、ホルンの音色を感じ取る。</p> <p>・「アレグロ」の冒頭の旋律を口ずさんだり、主な旋律が聴こえたところで挙手したりする。</p>	<p>○「ホルンの音楽の旋律を覚えてみましょう。」</p> <p>○「この旋律が出てきたところで、手を挙げましょう。何回出てくるか数えながら聴きましょう。」</p>
<p>研究 (3)</p> <p>児童が音楽を聴き、感じ取ったことを挙手などで表現することで (可視化)、楽曲の特徴 (反復) や演奏のよさ (音色) に気付いたり、理解させたりして、鑑賞活動を深めることができた。</p>	

・ワークシートに気がついたことを記入する。

● 主な旋律を手がかりにして、ホルンのあたたかい響きを感じ取って聴いている。

【発言内容 ワークシート 行動観察】

研究（１）（２）

音楽を聴き、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、自分なりの価値を見いだすことや感じ取ったことを音楽の特徴と結びつけて言葉で表すことで、楽曲全体を味わって聴くことができた。



実践例③ 所沢市立小手指小学校 第3学年の事例

1 題材名「いろいろな音色を感じ取ろう」

2 本時

(1) 目標

- 楽器の音色の特徴を感じ取って鑑賞の活動に進んで取り組めるようにする。(関心・意欲・態度)
- 楽器の音色に気をつけて聴き、感じ取ったことを比較したり、身体表現や言語活動で表したりするなどして、楽器固有の音色に気づいて聴くことができるようにする。(鑑賞の能力)

(2) 本時で主に扱う〔共通事項〕 音色

(3) 展開 (4/5時)

○学習内容 ・学習内容

○ 学習のめあての確認をする。

トランペットとホルンの音色をききくらべよう。

○ 音色と出会う。

- ・ トランペットとホルンを知る。
- ・ それぞれの楽器の音色を確認しながら聴く。

研究（３）

音楽に合わせて楽器の演奏のまねをして音色の移り変わりを身体表現した。



トランペットの吹きまねだ

○主発問 ●評価規準 【評価方法】

<研究1>

音楽的な言葉「音色」を板書で確認し、学習のめあてとの関連を図る。



《 音楽的な言葉の常時掲示 》

○ 「トランペットとホルンの音色は、どのように違いますか？音楽の感じ方（板書）をヒントに考えながら聴きましょう。」

教材・指導・発問の工夫

- ・トランペットやホルンの楽器の音が交互に聴こえるようにあらかじめ音源を編集し、繰り返し聴かせたことで音色の移り変わりを身体表現し、可視化した。
- ・身体表現を活用し、「何度も聴きたい」という児童の意欲を高めることができた。

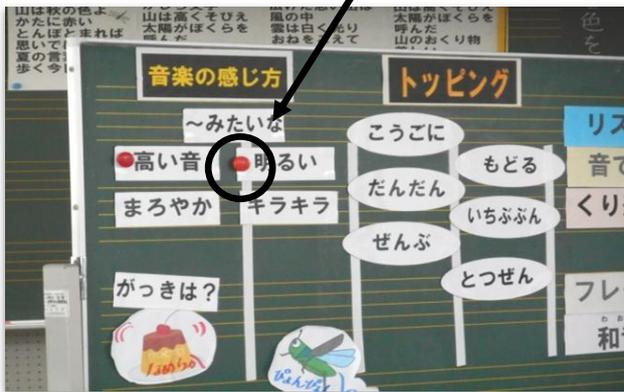
研究（１）

- (1) トランペットとホルンの音色をくらべるとどちらがいますか？
- (2) トランペットとホルンの音色のどちらが好きですか？

《 児童に示した話型 》

研究（１）（２）

活用した音楽的な言葉に印を置いて、強調した。



《 言葉の焦点化 》

指導の工夫

- ・楽曲を繰り返し聴き直し、音楽を特徴づけている言葉を再確認した
 - 「高い音がした。」 1回目
 - 「キラキラした音がした」 2回目

○ 「楽器の音色や演奏の方法が分かったかエア楽器で確認します。音色に合わせて、演奏の真似をしましょう。」

● 楽器の音色や楽器の形の違いに着目し、楽曲を聴いた際、反応よく生き生きと身体表現をしている。【発言内容・行動観察】

○ 「今日は、トランペットとホルンの音色の違いに気をつけて音楽を聴きました。今日の学習で分かったことを友だちと教え合いましょう。」

研究（１）

自力解決が困難な児童には、音色の違いを自分の言葉で表現できるようにキーワードや話型が書かれたヒントカードを手渡した。

9月18日 かんじょう ヒントカードくん
あとでかえしてください

	トランペット	ホルン
絵		
にているところ	いきでふいて音を出す ベルがついている	
音色	トランペットのほうか、○○○です。 ホルンのほうか、○○○です。 あなたなら、○○○に、どんなことばを入れますか？ ・キラキラ ・しっとり ・音が高い ・音がひくい ・やさしい ・つめたい ・明るい ・くらい ・元気 ・おちついてる	

《 評価Cの児童への支援 》

○本時のまとめをする。

- ・子ども同士でトランペットやホルンの音色について教え合いをする。

●トランペットとホルンの音色の違いや楽器の形の違い等に気づき、言葉等での確に表現している。【発言内容】

研究（１）

教師は、板書と同様の音楽的な言葉が記載されたミニ黒板を持ち運びながら机間指導を行った。適切な言葉が思い浮かばない児童の思考を支援する手立てとなった。



《 机間指導でのミニ黒板の活用 》

《 伝え合う・教え合う 》



実践例④ 所沢市立宮前小学校 第1学年の事例

1 題材名「ようすをおもいうかべよう」

2 本 時

(1) 目 標 ようすをおもいうかべて きぶんがかわる おとをきこう

(2) 本時で主に扱う [共通事項] 速さ・旋律 (曲想の変化・楽曲構成)

(3) 展 開 (2 / 5 時)

○学習内容 ・学習活動	○ 主発問 ●評価基準 【評価方法】
<p data-bbox="327 1541 1246 1608">学習のめあて 「ようすを おもいうかべて おとを きこう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞曲「おどるこねこ」を聴く (～約 23 秒まで) ・鑑賞曲「おどるこねこ」のはじめの部分を聴く。 <p>○猫の鳴き声 (バイオリンでグリッサンド・弦をすべらせて演奏する方法) に気付く。</p>	<p>○「この曲にはある動物の鳴き声が出てきました。何の動物でしたか？」</p> <p>児童：「確かこねこだったよ！」</p> <p>教師：「そうですね。よく覚えていました。もう一度聴いてみましょう。猫がみゃーと鳴いたら猫の手をしてください。」</p>

研究（3）

猫の鳴き声（バイオリンで弦をすべらせて演奏する）を聴取し、その音に合わせて猫の手の動きを真似させた。子ども一人一人猫のイメージがあり、回数を重ねるごとに猫の鳴き声に注意して耳を傾けるようになり、表現を工夫する姿が見られた。子どもが正しく猫の鳴き声を聴取しているかを見取るための一つの手立てとして、猫の手の動きをさせてみたが、一人一人の聴取力が可視化され、評価の見取りが出来た。



○様子を思い浮かべながら音楽を聴く。

○音を聴取し、イメージを書き留める

●楽曲を聴いて身体表現をすることを通して、曲想の変化に気づき、感じたことやイメージしたことを体全体で表している。

【発言内容・表情観察・身体表現】

研究（1）（2）

楽曲を5つの場面に区切り、1場面ずつ区切って聴取させた。場面ごとに「どんなようすが思い浮かんだかな？」「次はどうなったかな？」と問いかけ、子どもたちのイメージを膨らませていった。子どもたちの反応に対しては、「どの部分でそう感じたのかな？」とさらに問いかけ、次に音を聴くときに、もっと注意深く音を聴取できる発問を心がけた。また、**音楽の感じ**と**速さ**に分けて、子どもたちの発言を板書した。それにより、音や言葉のイメージを描きにくい児童に対しての支援となった。さらに、各場面の絵を時系列に整理したことで、楽曲全体の流れを理解できるようになった。

終末で、各場面の絵と同じ絵を載せたワークシートを用意し、吹き出しの部分に猫の様子を創造して記述させ、児童一人一人の思いを受け止めるようにした。



【共通事項】 曲想の変化・速さ



「音楽活動」と「言語活動」の関連

●楽曲を聴いて身体をつかって表現をすることを通して、曲想の変化に気づき、感じたことやイメージしたことを書いたり発表したりしている。

【発言内容・表情観察・ワークプリント】

実践例⑤ 所沢市立狭山ヶ丘中学校 第1学年の事例

1 題材名「詩の内容と音楽が一体となった歌曲のよさを味わおう」

2 本時

(1) 目標 音楽を形づくっている要素の働きと効果を知覚し、人物ごとの表現における曲想の変化や雰囲気を感じ取ることができるようにする。

(2) 本時で扱う主な〔共通事項〕 音色 リズム 旋律 強弱

(3) 展開

○学習内容 ・学習活動	○主発問 ●評価規準【評価方法】
<p>○各登場人物をどのように表現しているのかを感じ取る。</p> <div data-bbox="236 658 738 981"> <p>研究(1)</p> <p>表現の中でも着目する要素をしぼり、意識的に聴取するようにした。〔共通事項〕を意図的に用いることで、生徒から音楽的な言葉を引き出せるようになった。</p> </div> <div data-bbox="236 1003 892 1279"> <p>研究(3)</p> <p>登場人物を聴き分ける際、ゲー、チョコキ、パーで予想を提示させることで、生徒が聴きながら登場人物の特徴をつかんでいることを確認することができた。</p> </div> <p>○登場人物ごとにどのような音楽的工夫がされているか、詩の内容と関わらせてまとめる。</p> <div data-bbox="220 1391 810 1648"> <p>研究(2)</p> <p>自分たちが感じ取った特徴を、詩の内容と照らし合わせて味わうことで、「なぜ」そのような表現になったのか、ということに着目をし、言語で表現することができた。</p> </div> <div data-bbox="376 1671 895 1928"> <p>魔王はどうして優しい歌い方なのだろう？ …そうか、魔王は息子を誘惑しようとしていたのか！！</p> </div>	<div data-bbox="1002 568 1318 689"> <p>教材名： 「魔王」シュベール作曲</p> </div> <div data-bbox="767 607 1174 909"> </div> <p>○「どの旋律がどの登場人物を表現しているのか、特徴から予想してみよう」</p> <p>●音楽を形づくっている音色、旋律、強弱や構造と曲想の関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。【行動観察】</p> <p>○「なぜそのような表現したのか詩の内容から考えてみよう」</p> <div data-bbox="951 1402 1342 1693"> </div> <p>●音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【ワークシート】</p>

V まとめ

今年度は、音楽科研究部で主に「鑑賞活動」での言語活動の充実を図るために、「音楽的な言葉を共有し、適切に活用すること」「感じたことを可視化し、言葉で表しやすくすること」「言語活動と音楽を聴く活動の関連を図ること」の3つに重点を置き、研究を進めてきた。

< 成果 >

1 音楽的な言葉を共有し、適切に活用する

児童生徒への発問やめあての提示などにおいて、意図的に[共通事項](音楽を特徴付ける要素・音楽の仕組み)を用いることで、児童生徒が音楽的な言葉(楽器の音色や曲想の変化、強弱や表現の仕方など)を手がかりに、その特徴と音楽を結びつけて深く味わいながら聴こうとする姿が多くみられた。また、感じ取ったことを発表したり、他者に伝えたりするときに、その言葉を活用する場面もみられた。

2 感じたことを可視化し、言葉で表しやすくする

楽器の音色を聴き比べる授業では、音楽を聴き、その楽器の特徴(音色や演奏の仕方)を捉えて演奏する様子を真似することで、さまざまな楽器の音色を聴き比べることができた。子ども同士で楽器の音色について、音楽的な言葉を用いて意見交流することができた。また、場面の様子を想像しながら聴く授業では、児童の反応(音楽に合わせて踊るなど)に対して、「どのような部分からそう感じたのか。」と音楽を特徴付ける要素(速さやリズムなど)を考えるよう問いかけ、児童の考えをより深めることができた。

3 言語活動と音楽を聴く活動の関連を図る

音楽をただ聴くことにとどまらず、意見交流や記述などの後、児童生徒が感じ取った音楽的な特徴を、楽譜や詩の内容と照らし合わせて、もう一度音楽を味わって聴くことで、思考力、判断力を高め、鑑賞活動をさらに深めることができた。

< 課題 >

1 言語活動を重視するが、言語活動を目的にしないこと

言語活動を重視することにより、教師の説明や子ども同士の意見交流の時間が長くなり、本来の音楽科の学習である音楽を聴く活動の時間が短くなってしまいうことがないようにする。言語活動を目的にしないために、日頃の授業でも[共通事項]を意図的に取り入れ、視覚的な手立てとなるよう提示し、児童生徒が音楽的な言葉を適切に活用でき、音楽のよさ、面白さ、美しさを共有できるよう努めていきたい。

2 さまざまな授業展開の工夫を行うこと

音源を収集したり編集したりして、教師自身が音楽を深く聴きとり、教材研究を深めることで、児童生徒への効果的な指導を行うことができる。また、ゲストティーチャーを招聘し、生演奏を聴かせたり、教師自身が楽器を演奏したりすることは、児童・生徒にとって貴重な体験であり、音楽を鑑賞する喜び、興味関心を高めることができる。このように、常に発展的かつ魅力的な授業を展開できるよう努めていきたい。

(参考文献) 初等教育資料 平成25年7月号「各言語活動の充実を通じた授業の改善」②
初等教育資料 平成25年10月号「学習指導要領における指導のポイント」
[音楽]